

事業記録

特別展記録

ボナール展（生誕百年記念）

Bonnard

1968. 3. 20～1968. 5. 5

（東京，国立西洋美術館）

1968. 5. 11～1968. 6. 16

（京都，京都国立近代美術館）

出品内容＝油彩：79点 水彩グワッシュ：7点

デッサン：41点 石版：21点 彫刻：3点

京都国立近代美術館，毎日新聞社と共催

入場者：東京＝275,704 京都＝173,138

ボナールの生誕 100 年にあたる1967年には，これを記念して世界各地で彼の記念展が開催されたが，本展もまたその一翼を担うべく企画，実現されたものである。アンティミスト，コロリストとしての彼が近代絵画史に占める位置は極めてユニークなものであり，ルノワールやマチスなどともに「生きる欲び」を絵筆に托して歌いあげた最もフランス的な画家の一人であることは今さら言うまでもない。

今回の出品作は，ボナールとゆかりの深いアントワヌ・テラス氏その他の尽力により，フランス本国はもとより，イギリス，アメリカ等の公私のコレクションから借り出された油絵，版画，ポスター等 150 点余に及び，ボナール芸術の全貌を極めて密度の高い形で示し，専門家と一般を問わず多数の観客に深い感銘を与えた。



ブールデル展

Bourdelle

1968. 7. 7～1968. 8. 25 (東京, 国立西洋美術館)

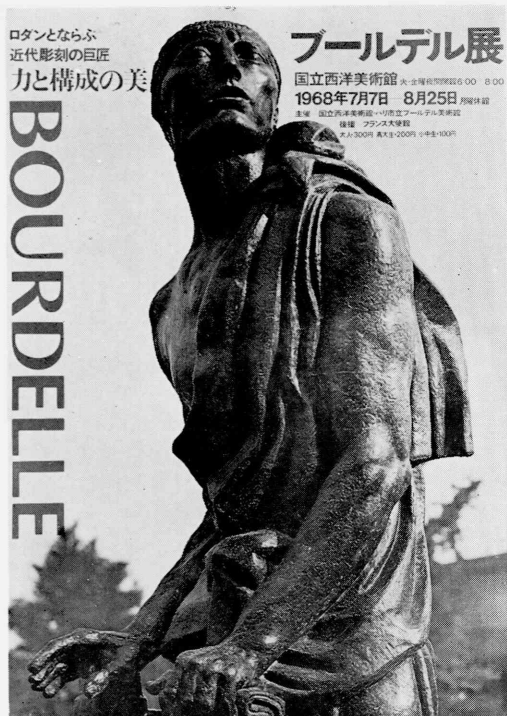
1968. 9. 8～1968. 10. 27 (京都, 京都国立博物館)

出品内容＝彫刻：89点 デッサン・水彩：36点
油彩：4点

京都国立博物館, ブールデル美術館と共催

入場者：東京＝64,528 京都＝36,413

国立西洋美術館がこれまでにに行ったロダン、マイヨールの彫刻展に加えて、このブールデル展によって近代彫刻展の三部作が完結したことになる。生命と人間を追求したロダンの芸術から出て、厳しい総合に到達したブールデルの芸術は、オーギュスト・ベレとの協同製作やその力強いモニュマンによって、建築と彫刻、さらに環境の問題など、今日的な意義をもっている。この展覧会は、ブールデル未亡人、デュフェ・ブールデル夫妻の絶大な好意、ブールデル美術館の全面的な協力を得て、国立西洋美術館、京都国立博物館の共催で実現した。デッサン・絵画40点、76点のブロンズは高さ4米に及ぶ巨大な群像を含み、さらに日本国内所蔵の13点を加えた総点数129点の内容は、ブールデル死後の、1931年のオランジュリー大回顧展をしのぎ、1928年のブリュッセル展いらいの最大の規模をもつもので、輸送時の総重量は20,764トンにのぼった。その破格な重量と容積によって、運送、陳列、照明などに多大の努力と工夫を払ったが、日本における真の美術愛好家の心からの賛同を得たことはよろこばしい。



レンブラントとオランダ絵画巨匠展

The Age of Rembrandt, Dutch Paintings
and Drawings of the 17th Century

1968. 10. 19～1968. 12. 22

(東京, 国立西洋美術館)

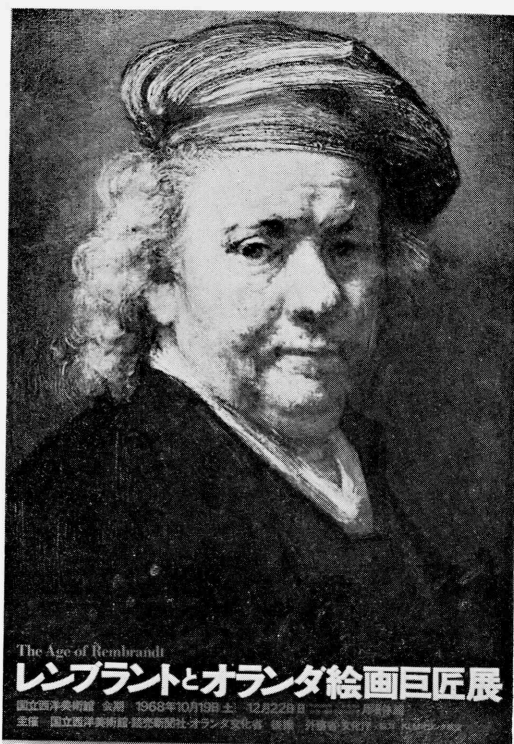
1969. 1. 12～1969. 3. 2 (京都, 京都市美術館)

出品内容＝油彩：78点 デッサン・版画：48点

京都市, 読売新聞社, オランダ文化省と共催

入場者：東京＝188,931 京都＝80,035

17世紀はオランダの黄金時代と呼ばれる。スペインの支配を脱して共和国として独立した新興オランダは、南アメリカや東洋との海外貿易を基礎として、輝かしい経済的發展を遂げ、豊かな市民社会文化を生み出した。美術の分野では、現実主義的な市民たちの好みを反映して、風景画、肖像画、静物画、風俗画など、自分たちの身近な世界をありのままに描き出した絵画が多数製作され、油彩画の技法も飛躍的に向上した。本展覧会は、そのようなオランダ17世紀絵画の全貌を伝えようとする充実した内容のもので、油絵、デッサンを合わせて37点のレンブラントをはじめ、フェルメール、フランス・ハルス、ヤン・ステーン、ホッペマ、ロイスダール、セーヘルズ等、オランダの重要な画家61人の作品125点を集めたものである。17世紀オランダ絵画については、わが国ではこれまでほとんど紹介されたことがなく、わずかに「フランスを中心とする17世紀ヨーロッパ名画展」(1966年)および「レンブラント名作展」(1968年)でごく少数招来されたにとどまるので、これだけまとまった展覧会はほとんど初めてであり、その意義は高く評価される。



ロートレック展

Lautrec

1969. 1. 22～1969. 2. 23(東京, 国立西洋美術館)

出品内容=油彩: 58点 デッサン: 19点

版画: 135点 ポスター: 20点

入場者: 東京=201, 446

トゥールーズ・ロートレックの名は我が国でも一般の間になんかなり浸透しているが、彼の芸術が本格的な形で我が国に紹介される機会には従来なかなか恵まれなかった。今回のロートレック展は、彼の作品を質、量ともに最も豊富に収蔵するアルビ美術館からの出品作を中心として、出品総数 260 余点に及び、ここにようやくかねてからの懸案でもあったロートレック展が実現した。出品作の内、油彩画は約60点と決して多くはなかったが、その反面ロートレックの芸術性をおそらく油彩画よりよく物語っている版画、ポスター類が豊富に出品され、彼のグラフィックな才能と世紀末のバリの香気とを余すところなく我々に伝えてくれた。諸般の事情により展覧会の開催期間は一ヵ月にすぎなかったが、一般の関心を大いに呼び、入場者数も短期間の割には記録的な数字を示した。



ロートレック展 1969年1月22日水 2月23日 国立西洋美術館 月曜休館

主催 国立西洋美術館 東京国立近代美術館 国立新美術館 フランス共和国 協賛 内閣府 文化庁 フランス文化省 フランス共和国 日本文化振興会 協力 東京・フランス

巡回展記録

昭和43年度

絵画：59点 彫刻：18点

●7月18日～8月4日

会場＝新潟県美術博物館

新潟県, 新潟県教育委員会, 新潟県美術博物館,
新潟日報社と共催

入場者＝116,056



新潟会場

●10月26日～11月17日

会場＝広島県立美術館

広島県教育委員会と共催

入場者＝78,764



広島会場

講演会記録

昭和43年度

●ボナール展記念講演会

3月23日

ボナールについて

アントワヌ・テラス（通訳穴沢一夫）

映画「ボナール」一巻上映

4月6日

ボナールの絵と技法

画家 大久保泰

4月20日

ボナールの世界

国立西洋美術館主任研究官 中山公男

●ブールデル展記念講演会

7月13日

ブールデルの思い出

パリ市立ブールデル美術館副館長 ミシェル・

デュフェ（通訳高階秀爾）

映画「ブールデル」二巻上映

7月20日

ブールデル, 人と芸術

芸術院会員 清水多嘉示

7月27日

モニュメントと環境

栗津デザイン研究所長 栗津 潔

8月3日

ロダンとブールデル

国立西洋美術館事業課長 穴沢一夫

●レンブラントとオランダ絵画巨匠展記念講演
会

10月19日

フェルメールの絵画

マウリツホイス美術館長 A・B・ド・フリース

(通訳高階秀爾)

10月26日

蘭学と日本近代化

東京大学助教授 芳賀 徹

11月2日

17世紀のオランダ絵画

国立西洋美術館長 山田智三郎

11月9日

レンブラント

慶応義塾大学助教授 八代修次